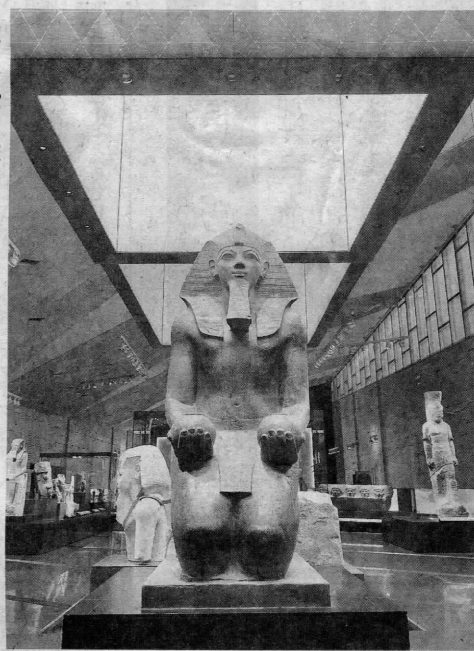


ツタンカーメン王墓から発掘された儀礼用ベッドの  
修復風景©GEM/JICA



大エジプト博物館のメインギャラリー©GEM



## 10万点収蔵の「大エジプト博物館」

エジプトのカイロ近郊で11月1日、古代エジプトの秘宝約10万点を収蔵する「大エジプト博物館（GEM）」が全面開館した。大阪・関西万博の会場で9月、「ついにオープン！ 大エジプト博物館のとおきのお話」と題したトークイベントを国際協力機構（JICA）が開き、収蔵品の保存修復に携わった専門家が開館準備の苦労や今後の期待を語った。

同館はクフ王のピラミッドの近くに建設された。JICAは建設や宝物の保存修復などを長期にわたって支援した。展示面積は約5万平方メートルで、単一文明を扱う博物館では世界最大級という。老朽化するエジプト考古学博物館にあったツタンカーメン王（約3350年前に死去）の墓の副葬品約5000点もGEMで収蔵、公開している。

### 専門家が明かす苦勞

保存修復の専門家である東京芸術大の岡田靖准教授は、ツタンカーメン王の副葬品のうち戦闘用の2頭立て二輪馬車「チャリオット」5台と儀礼用のベッド3台の修復に関わった。普段修復する日本の仏像は古くても約1400年前の飛鳥時代のものといい、「ここまで古いものには触ったことがなかった。ドキドキしたが、チャリオットもベッドもまだ強度が残っていた」と話した。

イベントに登壇した日本通運関西美術品支店の徳田英昌さんは、美術品移送一筋44年のベテラン。現地でも宝物に触れる部分は紙や布など有機物で包み、ミリ単位の作業を遂行したと説明した。「エジプト側は10%ぐらいは壊れても仕方がないと考えていたようだが、壊れるものはゼロでなければ負けだと思って運んだ」と自負を語った。

GEMの元第一館長補の鈴木彰さんは「入った瞬間から日本にはない雰囲気、圧倒される。見学するには何日もかかるが、ピラミッドの近くにすばらしい博物館ができたので、ぜひ訪ねてほしい」と呼び掛けていた。



大エジプト博物館（手前）と  
ギザのピラミッド群©GEM